

エコチル調査コアセンターの オリジナルキャラクターが誕生しました！

どうぞよろしく！
なかよくしようね



カワウソをモチーフとした、エコチル調査コアセンターのオリジナルキャラクターが誕生しました。頭の上にちょこんと載せた葉っぱ、胸元のふんわりとしたハートがチャームポイントです。

キャラクターイメージは、好奇心旺盛で元気いっぱいの子どもと、子どもの健やかな成長を見守る大人。子どもの健康と環境を考えるエコチル調査のコンセプトを表しています。

参加者および協力者の方々にエコチル調査を常に身近に感じてもらうとともに、一般の方々にも興味・関心を持ってもらえるようなオリジナルキャラクターとして、これからさまざまなシーンで登場する予定です。どうぞお楽しみに！

研究者紹介 Face



このコーナーでは、エコチル調査コアセンターの研究者を紹介していきます。
第一回は、国立環境研究所環境リスク・健康研究センター曝露動態研究室 室長
兼エコチル調査コアセンター研究開発室長の中山祥嗣さんです。

—エコチル調査コアセンターでは、中山さんはどんな仕事をしていますか。

エコチル調査では、環境が子どもの健康に与える影響を調べていますが、そのうち子どもたちがどんな環境の中で大きくなっているかを調べています（これをばく露評価といいます）。皆さんからお預かりした生体試料の保管や分析、環境測定や大気汚染のモデル推計、質問票調査の中でのばく露評価に関するチームの責任者です。加えて、国際連携も担当しています。

—なぜ研究者になったのですか。

宇宙物理学者になるのが子どもの頃の夢でしたが、とても体が弱く、いつも病院のお世話になっていました。そこで小児科医を目指して医学部を卒業しました。そのときに、病院に来る一人一人の命を守る医師も必要だけれど、病院に来ない大勢の健康を守る医師も必要だと思い、医師であると同時に研究者になることにしました。臨床研修をしながら大学院に通い、公衆衛生（みんな（公衆）の健康を守る（衛生））を学び、博士号を取りました。そのあと、アメリカの環境保護庁（US EPA）に招かれ6年間働き、2011年にエコチル調査コ

アセンターに赴任しました。

—エコチル調査に対する思いをお聞かせください。

ケネディ大統領は「子どもたちは、世界で最も貴重な資源であり、未来への一番の希望である」といいました。その子どもたちが育つ環境を守るのは、私たちの責任です。エコチル調査は化学物質の子どもへの影響に焦点を当てた、世界でも珍しい大型研究です。日本の子どもたちだけでなく、世界中の子どもたちの未来に貢献できます。参加していただいている皆さま、それを支えてくださっている家族の皆さま、地域の皆さま、政府・政治家、研究者、みんなの期待に応えられるよう、新しい科学を取り入れながら、調査を成功させたいと思います。



米環境保護庁（EPA）
時代、汚染物質の調査
をしているところ。

※参加者のみなさまへのお願い

住所が変わった時は、担当のユニットセンターに
新しい住所をお知らせください

転居先が調査対象地域外であっても、質問調査票へのご協力など、可能な範囲でご協力のほどお願いいたします。変更があった際は、質問票調査に同封している「登録内容変更届」に新住所をご記入の上、質問票とともにご返信ください。または、担当のユニットセンターにお電話ください。

質問票調査にご協力ください

みなさまにお答えいただく質問票は、今後の調査、研究にとって非常に貴重なデータとなります。ちょっと答えにくかったり、時間がかかってしまう時もあるかと思いますが、質問票への回答、返却にご協力いただけますようお願いいたします。

お問合せ エコチル調査コールセンター

0120-53-5252

9:00 ~ 22:00（フリーダイヤル・年中無休）

■発行

子どもの健康と環境に関する全国調査
（エコチル調査）コアセンター

〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2 国立研究開発法人国立環境研究所



2018年8月 発行



エコチル調査シンポジウム特集号

研究者紹介「Face」スタート！

vol.14

あなたが たより

エコチル だより

エコチル調査だよりは、「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の研究成果や進捗状況を参加者のみなさまへお知らせする情報紙です。

<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>

第7回 エコチル調査シンポジウム開催 テーマは「みんなで支える妊娠・出産」

産婦人科医の荻田和秀先生が特別講演に、
パネルディスカッションには蝦原英里さんも登壇

2018年2月10日（土）、日本科学未来館にて、第7回エコチル調査シンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムの目玉は、ドラマ化された人気漫画『コウノドリ』の主人公のモデルとしても知られる産婦人科医・荻田和秀先生による特別講演。また、山梨大学教授の山縣然太郎先生がコーディネーターを務めたパネルディスカッションでは、荻田先生のほか、蝦原英里さん、助産師の半澤ハル子先生、川本俊弘コアセンター長がパネリストとして登壇し、「妊娠・出産をみんなで支えよう！」をテーマに話し合いました。

次ページ以降でシンポジウムの様子をご紹介します。

▼シンポジウムを終えて



▶今年も大勢の方にご来場
いただきました



▶人気漫画『コウノドリ』の
モデルとなった
荻田和秀先生

▶看護師として
新生児集中治療室
勤務経験もある
蝦原英里さん

パネルディスカッション

妊娠・出産をみんなで支えよう！



パネリスト：写真左から
川本俊弘先生（エコチル調査コアセンター長）
半澤ハル子先生（助産師、エコチル調査福島ユニットセンター）
蝦原英里さん
荻田和秀先生（産婦人科医）

コーディネーター：写真右端
山縣然太郎先生（エコチル調査甲信ユニットセンター長）

妊娠中の環境

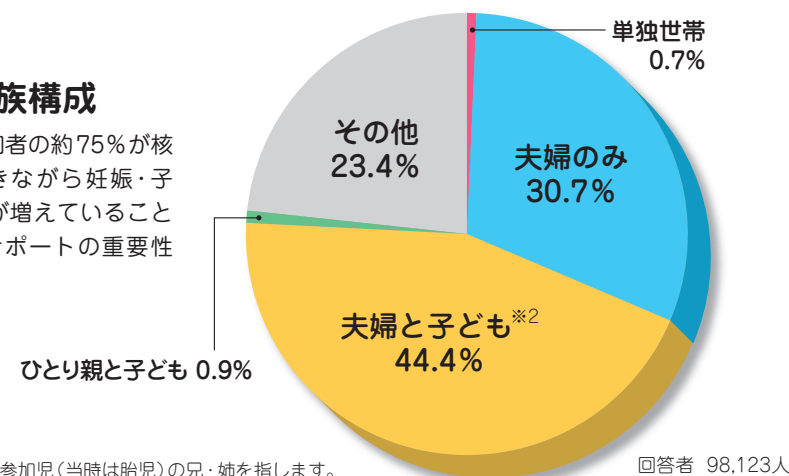
山縣 最初は、妊娠中の環境について。特に問題になっているのが、妊娠中の喫煙です。妊娠中のタバコの影響はさまざまありますが、荻田先生はどのように指導をされていますか？

荻田 基本的に、「お母さんがタバコを吸うことは赤ちゃんにとって百害あって一利なし」と話しています。妊娠中の喫煙では、常位胎盤早期剥離^{※1}など赤ちゃんの命に直接関わるリスクもあります。大阪人なので、「タバコ高いやろ？その分お金貯めて産着を買ってあげたら？」と話しますね。

^{※1} 常位胎盤早期剥離：妊娠中または分娩中に胎盤が子宮壁から剥がれること。胎盤が剥がれる際に出血し、重症では母体と胎児の生命にも影響があります。

妊娠時の家族構成

エコチル調査参加者の約75%が核家族でした。働きながら妊娠・子育てをする女性が増えていることもあり、周囲のサポートの重要性が増しています。



^{※2} 子どもとは、調査参加児（当時は胎児）の兄・姉を指します。

山縣 蝦原さんは一児のお母さんですが、妊娠をきっかけに生活の中で何かを控えたことはありますか？

蝦原 私は、コーヒーや緑茶などカフェインが入っているものを控えていました。また、大きいお魚を食べると良くないと聞いたので、その点は意識して控えていました。

荻田 原則、普通に売られている食材を購入することで問題ありません。むしろ偏食や過剰摂取のほうが問題です。“おばあちゃん情報”やネットの情報はかなりフェイクが混じっていますので、メディアや“おばあちゃん情報”に対するリテラシー（適切に理解して記述・表現する能力）があった方がいいのかなと思います。

半澤 妊娠初期ではつわりがとてもしんどい人もいますし、つわりが全然ない人もいます。なので、妊娠初期は食べられるものをしっかり食べること、そして脱水しやすいので水分をしっかり摂ること、中期以降は鉄分の多いものを摂るように話します。日本人はカルシウムの摂取量が少ないので、カルシウムも大切です。妊娠中から必要な栄養素をしっかりとることは、お子さんが生まれてからの食育にも良い影響となります。

子育て支援のあり方

山縣 次は、妊娠中・産後のサポートについてです（妊娠時の家族構成について円グラフに示しました）。働きながら妊娠、出産する方が増えていますが、荻田先生のお話でも働きながらの妊娠・出産は重労働以上に蓄積する疲労があるとのことでした。

荻田 だから仕事をしない方がいいという意味ではありません。仕事をしていない人でもストレスにさらされるリスクは十分ありますし、そのリスクをどう解消するかは周りのサポートにかかっていると痛感しています。

山縣 蝦原さんは悩みがあるときにはどなたに相談したのでしょうか。

特別講演 妊娠・出産ホンマの話「奇蹟のすぐそばにいること」



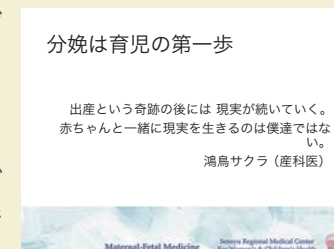
りんくう総合医療センター
産婦人科
荻田和秀先生

荻田先生による特別講演では、未受診妊婦などの社会問題や早産など妊娠期のトラブルについて、データに基づいてお話しされました。全体を通して、ご自身が主人公のモデルを務めるドラマ『コウノドリ』のエピソードなどを絡めたお話に、会場からは時折大きな笑い声此起彼伏。もちろん、産婦人科医として妊婦さんや赤ちゃんに向き合う荻田先生の姿勢に、参加者の皆さんは胸を熱くしたと思います。

そして、講演の最後には、会場に向けてこんなメッセージが送られました。

「ドラマでは『出産は奇蹟だ』というセリフが出てきます。このことについてはたくさんのご

意見がありましたが、私は奇蹟と呼んでいいと思います。奇蹟とは、もたらされるものではなく、再生産(Re-Production)できるもの。そのためには、お父さん、お母さん、家族だけでなく、社会がどのように見守っていけるかがこれからの問題になるはずです。私たち産科医もそこに寄り添い、子育てのハブになる存在でありたいと思います」



▲スライドの中で紹介された漫画『コウノドリ』の主人公・鴻鳥サクラのセリフ

蝦原 基本的には、一番身近にいる夫に話し、不安に思っていることは何でも話し合ってきました。あとは、「妊娠中にやりたいことリスト」を書いておいて、夫と一緒に取り組んだりすることで少しずつ不安を解消していきました。

山縣 おじいちゃんやおばあちゃんにサポートしてもらうこともあります。世代間ギャップなどで悩むこともあるかもしれません。

蝦原 抱き方や母乳育児について、母と意見が合わないことはありましたね。子どもが泣いていれば私はすぐに抱っこしたいのに、母から「抱き癖がつくし、肺の運動になるから泣かせたほうがいい」と言われたり。そのときは今の育児のことや私の気持ちなどを話して理解

してもらいました。

半澤 子育て中のお母さんの中には、お姑さんや実のお母さんとの意見の違いがあり、泣きながら電話をしてくる人もいます。そういうケースでは、おばあちゃんに対して直接お話しすると、「今はそんなに違うの」と理解してくれます。

山縣 最後に、全体を通してのコメントをお願いします。

半澤 妊娠、出産、子育てでは、妊婦さんはもちろん、妊婦さんを支えるパートナーの存在がすごく大きいと感じています。両親が仲良く子育てできるよう環境を整えていく必要がありますし、そのためには地域や医療機関との連携がとても重要になると思います。



▲ホールの外の展示スペースでは、環境について楽しみながら学べるケミカルバスル(写真左)や、ケミカルすごろく(写真右)が展示され、子どもたちが遊んでいました

